稲　穂

豊崎小学校　校長室通信
令和5年12月22日
第9号　文責　久保　亨

学校を安心・安全な場所に

学校を「安心・安全な場所に」ということは、現在は「安心・安全な場所ではない」ということですか？そう聞かれれば、残念ながら答えは「YES」です。報道等でご存じのように、全国で子どもの数自体は減っているにもかかわらず、不登校の児童・生徒数は過去最高で、いじめも増加しています。教職員の精神疾患による休職や離職も増え続けています。その原因は一つではなく、複数の要因があってのことですが、学校にも問題があると言わざるを得ません。

幸い、豊崎小学校では、そうしたことはありません（もちろん「皆無」ではありませんが）。今年度の欠席0の日数も、45日となりました。これも、児童や教職員の頑張りはもちろん、保護者や地域の皆さんの支えがあってのことです。心より感謝申し上げます。

本校が少人数であることは、大きなアドバンテージとなっています。教師は子どもたち一人一人と向き合うことができますし、子どもたち同士もお互い顔見知りで、朝のあいさつ運動では、運営委員の皆さんが一人一人の名前を呼んであいさつをしています。全員が学校を自分の「居場所」として認識しています。1人の教師が数十人の子どもたちと授業をしている学級・学校ではどうでしょうか。大人数の学級では、半分以上の子どもたちが教師と全く言葉を交わさないで1日を過ごします。子どもたち同士も然りです。そして、人数が多ければ、問題が起こることも多くなります。問題が頻発すると、手が回らなくなり…。子どもたちの関係が悪化し…。教師と子どもたちの信頼関係も崩れ…。保護者からも苦情が来て…。負のスパイラルに陥る危険性があります。

文部科学省では、多様な児童の「個別最適な学び」を推進するために、「教師が教えるのではなく、児童が自ら学び、教師はそれを支援する」という、いわばこれまで（教師が全員に同じことを教える）とは方向性を180度転換した形の学習を展開するように要請しています。しかし、今の学校体制では、ほとんど夢物語です。

学校は、「やらなくてはならないこと」が増え続けています。ここ数年のことだけでも、枚挙にいとまがありません。外国語活動が「外国語科」となり、「話す・聞く」学習に加えて「読む・書く」学習が追加されました。年間授業時数も35時間から70時間と倍に増え、1週間当たりの授業時数が1時間増えてしまいました。道徳も、「特別の教科」となり、評価をされることになりました。その他にも、「キャリア教育」など、いわゆる「〇〇教育」というものもどんどん追加されています。そこへ、コロナ等の感染症への対応、そして一人一台端末の導入です。そのような状況にも関わらず、何と、減らされたものはほとんどありません。児童も教師も、全く余裕のないギリギリの状態です。

本校で言えば、複式学級が増えているのも痛手です。複式の授業では、児童は教師に見てもらえる時間が半分になりますので、半分は自分たちで学習を進めなければなりません。担任は、授業の準備だけでも倍の仕事量になります。そして、複式学級が増えると、教師の数が減ります。人員が減っても、学校としてやるべきことは減りませんので、一人当たりの仕事が増えることになります…。

学校は、子どもにとっても、教師にとっても安心・安全な場所でなければならないと思っています。子どもたちの笑顔のためには、教師の笑顔が必要です。教育課程を工夫し、できるだけ働き方改革を進めて、学校を「ほっ」と安心できる場所、みんなが笑顔になれる場所にしていきたいと思っています。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

令和5年もあっという間に年末を迎えました。
どうぞよい年をお迎えください。